

精神病床「居住の場」に活用方針

長期入院の固定化懸念

厚生労働省が、精神科病床を大幅に削減し、空いた病床を精神障害者の「居住の場」に活用できるとの考えを打ち出したことに対し、京滋の当事者や福祉関係者が強く反発している。厚生労働省は、あくまでも精神障害者の長期入院解消が目的で、地域社会への復帰に向けた支援の場と説明する。だが当事者らは「看板の掛け替えに過ぎず、長期入院の固定化につながる」と不安視している。



地域の福祉事業所で軽作業に励む中川さん(左端)。「入院生活は刑務所にいるのと変わらなかった」と振り返る—京都市上京区・つくしハウス

全国の入院患者は約30万人で、うち1年以上の長期入院は約20万人に上る。同省はこれら「社会的入院」を解消するための有識者検討会を設置して議論を進めている。同省は検討会に示した報告書案に、患者が退院して不要になった病院設備の有効活用策として、居住の場としての使用を例示。外部との交流を進めながら、地域で暮らす上で必要な生活訓練や福祉サービスを受けられる場とする案を示した。

京滋関係者「看板の掛け替え」 厚労省「社会復帰を支援」

京都市上京区の精神障害者福祉事業所「つくしハウス」利用者で、5年間の入院経験がある中川博さん(64)は「起床時間や食事も決められた自由のない生活には二度と戻りたくない。『ガチャ』という病棟の鍵の音が今も耳から離れない」と話し、「病院はあくまでも病院。人間らしい生活はできない」と話す。

滋賀県日野町の障害者福祉事業所「わたむぎの里作業所」の酒井了治施設長(38)は「社会的入院を解消するには、地域のグループホームや福祉事業所、気軽に受診できる診療所を作り、それを支える人材を育成するのが本来の姿だ」と訴える。26日には東京都の日比谷野外音楽堂で緊急集会が予定されており、京滋の当事者や福祉関係者も参加して反対の声を上げる。

厚労省精神・障害保健課は「誤解があるようだが、訓練のために病院にとどまるのは本末転倒で、可能な限り退院してもらいたい。地域の受け皿の充実が第一だが、それが十分ではない中、できる対策から始めたい」としている。(目黒重幸)

紙 恭順 組



見つけた古文書「石谷家文書」の、長宗我部元親が織田信長の命令に従う意向を示した手紙の部分「23日午後岡山市の林原美術館

「エアバッグの リコール拡大」

ホンダ、日産自動車、マツダは23日、事故の衝撃を和らげるエアバッグの装置が衝突時に破裂する恐れがあるとして、ストリーム、キューブ、アテンザなど25車種、計約80万8千台(2000年8月～05年12月製造)の追加リコールを国土交通省に届けた。

「宝石強盗」

中京署は、銃刀法違反(34)を現逮捕容疑分(34)で、中下ルの宝石(52)に、出したナイ石を奪おう(中京署に腕を捕まし、店の前性と協力し、盗をして

ッグを製造し、タカタに漏れがおり、月11日に約千台を追加が再調査が一連の内約218界で計約7今回分は約リコール対規模となっ化で対象台 国交省の のエアバッ ガス発生部 ミスがあら 破損し金庫 り出火し